

移住定住 WEB サイト
「ココカラオオツチ」
ほか SNS で情報発信



▶ WEB サイト

大槌町の暮らしについて紹介しているほか、空き物件情報や地おこ募集の情報なども掲載



▶ インスタグラム



▶ ツイッター



▶ フェイスブック



▶ ライン



ぜひ活用して大槌の「居・色・自由」を楽しみましょう！

はま留学生は行事などで地域の人たちとも積極的に交流。学校生活以外でも多くの出会いが生まれている



居・色・自由
いし・くじゅう

第9回

「出会い」で広がる世界



「はま留学」の生活2年目を迎えた矢作梨さん、栗原花音さん、藤本峰己さん。地元から進学した石川琉海さん、駒木健太郎さん、菊池康介さん。県外から入学し、大槌町で学んだことは？ 地元出身の高校生が、県外からの友人とふれあつて変わったことは？ 「はま留学」による化学反応を探ります。

来てみて感じた大槌の魅力

「下の名前で呼ばれる」「みんなあかさつをしっかりとっている」「地域の人たちが家族のように声をかけてくれる」。はま留学生として1年を過ごした3人は、大槌で生活して驚いたことをこう話します。友達を名字で呼ぶのが当たり前だったこれまでよりも、人との距離の近さや親密感を感じるという留学生たち。地元出身の3人は「昔から当たり前だと思っていた。あかさつをするのも特別なことだと思わなかった」と驚きました。地元を離れた3人は、大槌で実際に暮らすうちに、色々なことに出会い、興味を持ったと話します。「郷土芸能など、伝統的なものへの愛がすごくあると思った」という3人は、

鹿子踊りや虎舞などに参加。今まで見るだけのものと思っていた祭りが、身近にあることが楽しいと言います。また、学校生活や地域の人たちと関わる中で、最初にとまどったのが、方言。うまく聞き取れなくて聞き返したり、先生も方言で授業をすることに驚いたり。栗原さんは「大槌の方言は響きがかわいいで好きです。『くだべ』とか『あめる』とか。話せるようになりたいので、早くみんなからうつらないかな」と話しみんなの笑顔を誘います。最近では3人も、家族と話す時などに少し大槌弁になっていることに気づくそうです。来る前は分からなかった大槌の魅力や楽しさを肌で感じている留学生たち。「友達と大槌の色々な所でもっと遊んでみたい」と口を揃えます。

広がる視野、深まる価値観

留学生から大槌の意外な魅力を知った地元出身の3人は「自分たちが特に感じていなかったことを聞くと、違う視点だとそう見えるのか、と気づかされる」と語ります。「大槌の良い所がたくさんあるんだな」と育った町を見直すきっかけになっていきます。

この春、新たに5人のはま留学生が入学し、4月8日(土)に歓迎式が行われました。新入生は「釣りなどやったことが無いことにチャレンジしたい」「新しいことに出会って自分はどう変わるか楽しみです」と力強く抱負を語りました。大槌との新たな「出会い」がまた、さまざまな反応を起こし、大槌高校生や地域住民の皆さんの世界をさらに広がっていきます。

また、自分たちの町のことだけではなく、お互いの出身地の話を聞くことで、今までの常識や価値観が変わることも。菊池さんは「埼玉や大阪など、今までは観光地としての情報しか知らなかった。暮らす人の日常のエピソードなどを聞くことで、自分たちと違う部分、同じ部分を知ることができるし、意外と距離は近いのかなと思うようになった」と話します。他県の友人との出会いが、地元高校生たちの視野や価値観を広げ、奥行きのある人間性を育てることへとつながっています。



新たに入学した増田紫乃さん、小松瑞希さん、中澤陽菜さん、山内大吉さん、金沢健太さん